

令和4年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立篠崎高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 副校長、主任教諭(総務主任兼務)=事務局長 計2名
- (3) 内部委員の構成 校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭(教務担当)、主幹教諭(生活指導担当)、主任教諭(進路指導担当)、主幹教諭(総務担当) 計7名
- (4) 協議委員の構成 近隣中学校長、近隣保育園園長、町会長、同窓会会長、PTA会長・副校長 学識経験者2名 計8名

2 令和4年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和4年6月9日（木）15時50分から16時50分まで
内部委員7名、協議委員8名
令和4年度 協議委員及び評価委員委嘱、協議委員等紹介（自己紹介）、令和3年度学校経営報告、令和4年度学校経営計画について、本校の現状等について（報告）
 - 第2回 令和4年11月18日（金）午後15時50分から16時40分まで
内部委員7名、協議委員8名
現在のコロナ禍における本校の教育活動と家庭・地域との連携について
学校評価アンケートについて
 - 第3回 令和5年2月2日（水）15時40分から16時40分まで
内部委員7名、協議委員8名
本校の現状について
学校評価アンケート結果・分析・課題等報告、
- (2) 学校サポートチーム会議の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和4年11月18日（金）15時20分から15時45分まで
内部委員8名、協議委員8名
本校の喫緊の課題について

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
実施時期 令和4年12月～令和5年1月
実施対象 生徒・保護者・教職員・地域（江戸川区内中学校・下篠崎町会）
実施方法 生徒・保護者・教職員 Microsoft teams Forms による Web 回答
地域（江戸川区内中学校・下篠崎町会） アンケート用紙による回答
全校生徒 対象：814人 回収：683人 回収率：84%
保護者 対象：814人 回収：312人 回収率：38%
地域 対象：中学校18校と町会30人 回数率：100%
教職員 対象：47人 回収：30人 回収率：64%
- (3) 主な評価項目
・学習指導、生活指導、進路指導、特別活動、学校運営
- (4) 評価結果の概要
【学習指導】
- (4) - (1) 教務部による分析と課題
【分析】
 - ・大半の生徒、保護者が学校行事や学習活動に対して肯定的な思いをもっていただけていると分析できる。一部授業内容や進め方に関しての意見が出ているので、さらに生徒の可能性を引き出すことのできる学習内容を各教科で検討していただけるようにしていきたい。
 - ・行事の組み立てに関して、少し段取りがうまくいかなかった行事もあるので、担当を中心に検討していただきたい。
 - ・定期テストの範囲提示に関して、1週間前では遅いとの指摘があった。確かにそうであるので、検討していく。
【課題】
 - ・定期テストの範囲や課題提示に関して、1週間前までに提示するという事を各教科に徹底していく。授業の内容や、提出物の量に合わせて実態を見ながら早めに提示をしていく必要があると考えたので、それを実践できるようにしていく。
 - ・少人数や習熟度別学習については、教科ごとに検討を加え、さらに充実したものになるように働き

かけていく。

【生活指導】

(4) - (2) 生徒指導部による分析と課題

【分析】

- ・生徒の評価について
全学年(4)(5)(7)(12)(13)を取り上げて分析した。「ままそう思う」以上の割合が概ね8割以上、3学年のみ(4)「挨拶の励行……」、(5)「部活動……」、(7)「生徒の悩み……」、(12)「学校ホームページ……」の4項目で7割以上8割以下の回答が見られる。「そう思う」のみに特化すると、(12)「学校ホームページ……」はいずれも4割未満と最も低く、工夫の余地がある。
- ・保護者の評価について
全学年(4)(5)(6)(7)(9)(14)(15)を取り上げて分析した。「ままそう思う」以上の割合が概ね8割以上であるが、全学年共に(9)「学校は、悩みや相談……」、(15)「学校は、体罰や暴言……」(4)「挨拶の励行……」については6割程度であり、特に1年には「生徒の意見を取り入れる環境が整っていない感じがする」との記述が見られる。2・3年は(14)「学校ホームページ……」でも6割程度に留まる。1学年の記述には、生徒が学校のことを話したがる年齢ではないので、大きな情報源のひとつだという意見が見られた。(9)「学校は、悩みや相談……」の数値を踏まえ、三者面談等で担任から保護者に一層丁寧な声掛けをしてもらい、その中から出てきた声を生徒指導部で拾いながら、教育相談委員会とも連携して、指導・支援体制をより整備する必要がある。(12)「学校ホームページ……」は総務部と連携し、発信方法を模索する。
- ・地域社会の評価について
「本校の生徒心得、服装規定について知っている」について「分からない」という回答が多く、質問項目の妥当性を検討する必要性を感じる。
- ・教員の評価について
(4)(5)(6)(7)(9)(14)(15)を取り上げたが、「ままそう思う」以上の割合が概ね9割以上で、諸項目について肯定的である。
- ・記述について
「行事の充実」、「自転車の乗り方の改善指導」を要望する意見が複数見られる。特に「自転車」については、地域社会から数多く寄せられ、解決すべき喫緊の課題である。

【課題】

- ・自転車の乗り方に関する指導の強化
- ・学校行事の充実の工夫・見直し
※生徒会や委員会にも働き掛けながら「自分ごと」として捉えさせ、生徒指導部を中心に、学校全体で改善に努める必要がある。
- ・ホームページを活用した情報の発信に係る工夫・見直し
- ・生徒の悩みや相談を受けられる体制の一層の充実

【進路指導】

(4) - (3) 進路指導部による分析と課題

【分析】

- ・きめ細やかな進路指導、高大連携に対して、生徒は8割以上が肯定的にとらえている。進路指導の充実については、1.2年生は9割以上、3年生は8割以上が肯定している。
- ・昨年度はきめ細やかな進路指導について、3年生の肯定が6割強だったが、今年度は8割以上が肯定している。今年度より大学、短大の小論文、志望理由書、面接等の指導を全教員で担当したことにより、担任が生徒に対してより細かい指導ができるようになったからではないか。
- ・保護者については全ての項目について生徒よりポイントは下がるが、6割から7割の肯定である。保護者に実際のところがよく伝わっていないという数字だと思われる。全ての項目について昨年度5割程度(1.2年生)だったのが、上昇している。生徒が日々どのような指導を受け、どのような進路行事を経験したか等が、十分保護者に伝わっていないようである。

【課題】

- ・今年度より大学・短大の小論文、志望理由書、面接等の指導を全教員で担当した。このシステムに改善を加えて継続していく。
- ・生徒が進路について3年次の面談前までに保護者と話をするように指導していく。また日々の進路指導や進路行事についての話題が家庭であるよう、保護者にも保護者会等を通じて伝えていく。

(4) - (4) 総務部による分析と課題

【分析】

- ・保護者アンケートより「学校のことを話したがる年齢でもないのに、ほぼ情報は面談かホームページ頼みなどところがあるので、ホームページにどんどん載せて欲しいです。」という声が多数ある。
- ・学校説明会・見学会でのアンケートからも本校のホームページを見ている方が多い。

【課題】

- ・ホームページを活用して、情報を発信してほしいという意見が多くあった。ホームページを活用し、学年やクラスからも、可能なかぎり情報伝達していく。

(4) - (5) 1学年

【分 析】

・生徒アンケート

全14項目のうち、全ての項目において「1、そう思う」「2、まあそう思う」と肯定的に評価した割合が80%を越えており、中でも8項目については90%を越える結果であった。中学校在学時から新型コロナウイルスの影響によって、なかなか満足感のある学校生活を送ることができなかったと思われる生徒たちであるが、本校でのコロナ以前に戻しつつある教育活動に、魅力ややりがいを感じてくれている生徒が多い。

・保護者アンケート

生徒アンケート同様、「6、生徒は充実した学校生活を送っている」「7、部活動や学校行事は活発に行われている」の項目がどちらも85%の肯定的な評価を頂いており、生徒の様子を通じて教育活動を高く評価して頂いている。一方で、「8、ホームルームや委員会活動は充実している」は58%、「11、学校は生徒一人一人の将来設計に基づいたきめ細やかな進路指導を実践している」は68%とやや低い結果となり、校内での教育活動や進路指導については保護者に伝わっていないということがうかがえる。

【課 題】

- ・生徒アンケートについては、篠崎高校での生活に満足感を感じている生徒が多いため、今後より一層教育活動の質を高め、きめ細やかな学習指導、生徒の成長の場の確保、学校行事の充実、将来を見据えた計画的な進路指導を充実させたい。
- ・保護者アンケートについては、教育活動の細かな内容が保護者に届きづらいということを踏まえ、今後は学校ホームページやPTAメール、保護者会、三者面談を通じて積極的に情報発信をし、保護者からの理解や協力が必要だと考える。

(4) - (6) 2学年

【分 析】

- ・生徒対象のアンケートの全ての項目において「1、そう思う、2、ややそう思う」を合わせて8割を超えている。このことより、概ね篠崎高校に対して良い評価をしていると考える。
- ・生徒対象のアンケートの「部活動や学校行事の活発さ」が「1、そう思う、2、ややそう思う」を合わせて9割を超えているのは、日々の部活動の充実、何より修学旅行を実施したことがこの結果につながったと考える。
- ・生徒対象のアンケートの「進路指導関係」の質問に対しては、どの質問に対しても「1、そう思う、2、ややそう思う」を合わせて9割前後の評価となっている。進路指導部の進路指導や学年で企画した進路行事やLHR時の進路指導が、功を奏していると考えられる。
- ・保護者対象のアンケートでは、「1、そう思う、2、ややそう思う」を合わせて8割を超えているのは、生活指導関係の質問項目である。篠崎高校の生活指導方針が文書や担任からの電話や三者面談等のコミュニケーションで保護者に概ね伝わっていると考える。
- ・保護者対象のアンケートの学習指導面やHRや委員会活動の質問に対して「5、わからない」の回答が目立つ。

【課 題】

- ・結果分析でも触れたが、保護者に学習指導やHR、委員会活動の様子が伝わっていないことは一つ課題である。記述回答にもあったが、HPによる情報発信や学年通信の発行機会を今より増やすなど検討が必要である。
- ・生徒の回答を見る限り、概ね現状の篠崎高校に満足しているようである。次年度卒業に向けて、より一層の学習指導・進路指導の充実を図っていくとともに、コロナ禍だからできないではなく、コロナ禍でも行事を企画実施し、充実して思い出に残る篠崎高校での生活を実現させたい。

(4) - (7) 3学年

【分 析】

- ・3年生においては、学校の指導に対して否定的な割合が1・2年より多い。コロナに対する不満と学校に対しての不満が合わさっているかと思うので分析は難しい。教員側もこの未曾有の天災に3年間振り回され、行き当たりばったりの対応を余儀なくされ、頻繁に生徒をがっかりさせてしまったと思う。

【課 題】

- ・来年度は、コロナ前の学校生活が戻ってくると考えられるので、勉強だけではなく、行事・部活動を充実させる必要がある。学校への帰属意識が高まる指導を継続して取り組むようにする。

(4) - (8) 経営企画室による分析と課題

【分 析】

- ・「経営企画室の対応」及び「本校への連絡（電話等）における対応」に係る質問について、全体を通して概ね（9割以上）肯定的な回答であった。しかし、生徒、保護者及び地域社会からの回答には、僅かではあるが否定的なものもあった。

【課 題】

- ・経営企画室として、日頃から親切丁寧な窓口・電話対応を心がけている。本アンケートの結果を受け、これまでの対応を継続するとともに、「学校の顔」としての意識を持ち、都民・保護者等の視点に立ったより良い接遇を実践していく。

5 今回の学校評価アンケートの結果を学校経営に反映させ課題解決に向け短期的、中長期的施策を実施していく。

(1) 学習指導

- ・より一層のきめ細かい学習指導の工夫、一人1台端末の有効活用等を通して、基礎学力の確実な定着と学力向上を図る。

(2) 生活指導

- ・全教職員による挨拶の励行、遅刻指導、服装や頭髪等の身だしなみ指導を徹底し、基本的な生活習慣を身に付させる。
- ・登下校時の交通ルールやマナーを遵守させる指導を徹底する。

(3) 進路指導

- ・卒業後の進路実現に向けた3年間のビジョンを示し、生徒一人一人が目標を持って進路活動に取り組めるよう、組織的な進路指導体制の構築と高大連携事業を推進する。

(4) 特別活動

- ・部活動の活性化や学校行事の充実を図り、生徒の学校への帰属意識を高め、学校生活に充実感を感じさせる教育活動を推進する。

(5) 学校運営

- ・地域や保護者のニーズを踏まえた中高連携事業とホームページによる情報発信の強化を図る。
- ・経営企画室の経営参画と組織的な学校運営を推進する。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 8人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
6	1					1

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】なし